



右上から：スワロフスキー銀座
Honda Collection Hall 企画展
「CONTACT Honda F1 がインディを走った日」
観光交流センター 風の館
南九州コカ・コーラボトリング株式会社 コレクションギャラリー



第51期 中間
株主通信

2008.2.1—2008.7.31

To Our Shareholders



代表取締役社長 渡辺 亮

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

【はじめに】

さて本年7月、当社連結子会社である(株)丹青ディスプレイにおいて不適切な会計処理（以下、「本件」といいます。）が行われていたことが判明し、株主の皆様をはじめ関係各位には多大なるご迷惑とご心配をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。

当社は10月10日付で本件に関する調査結果を公表するとともに、過年度決算短信の一部訂正を行い、有価証券報告書及び半期報告書の訂正報告書を提出いたしました。当グループは本件を引き起こし、それを5年間に渡って放置してしまった事実について重く受け止め、深く反省しております。

また、今回の不祥事につき、ご心配をおかけしましたステークホルダーの皆様の信頼回復に向けて改善策を実践するとともに、経営者並びに当社及びグループ会社の全従業員の一人一人がコンプライアンスの遵守を徹底することにより、ステークホルダーの皆様との信頼関係の再構築こそが当社の活動の基盤であるとの認識のもとさらなる意識改革を行ってまいります。

今後当社が進めて参ります各種改善策に対し、皆様方のご指導とご理解を賜りますようお願い申し上げます。

【当中間連結会計期間の業績概況】

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、サブプライムローン問題に起因する世界的な信用収縮や米国経済の低迷及び原材料価格の高騰から企業収益が悪化し、また生活防衛意識の高まりから個人消費も冷え込み、総じて先行きの不透明感が拭えない状況で推移しました。

当ディスプレイ業界の事業環境につきましては、依然として公共事業が縮小傾向にあるうえ、大手企業の間設備投資を抑える傾向が急激に広がり、さらに個人消費の冷え込みにより小売業の店舗投資は一段と抑えられるという非常に厳しい状況が続きました。

このような状況のもと当グループは、利益管理の徹底、コスト削減策の実施など、収益力の強化に努めてまいりました。

この結果、当中間連結会計期間の売上高は309億55百万円となり、営業利益は4億52百万円、経常利益は4億31百万円、中間純利益は1億29百万円となりました。

(注) 前連結会計年度における決算期の変更により、前中間連結会計期間(2007年4月1日～2007年9月30日)と当中間連結会計期間(2008年2月1日～2008年7月31日)とは対象期間が異なるため、比較増減に関する記載は行っておりません。

【株主の皆様へ】

今後の見通しにつきましては、サブプライムローン問題に端を発する金融危機は未だ収束の兆しが見られず、また原油価格の高騰や輸出の鈍化などが企業収益をさらに押し下げることが予想され、景気の先行きは依然として不透明な状況であります。

当グループを取り巻く環境も、企業設備投資抑制や小売業の店舗投資縮小の傾向が一層強まる懸念があり、引き続き厳しい状況が続くものと考えられます。当グループといたしましては、空間づくりにおける総合品質保証を徹底し、高品質かつ安心・安全な空間の創造に努め、お客様から継続的に高い信頼をお寄せいただける企業を目指してまいります。

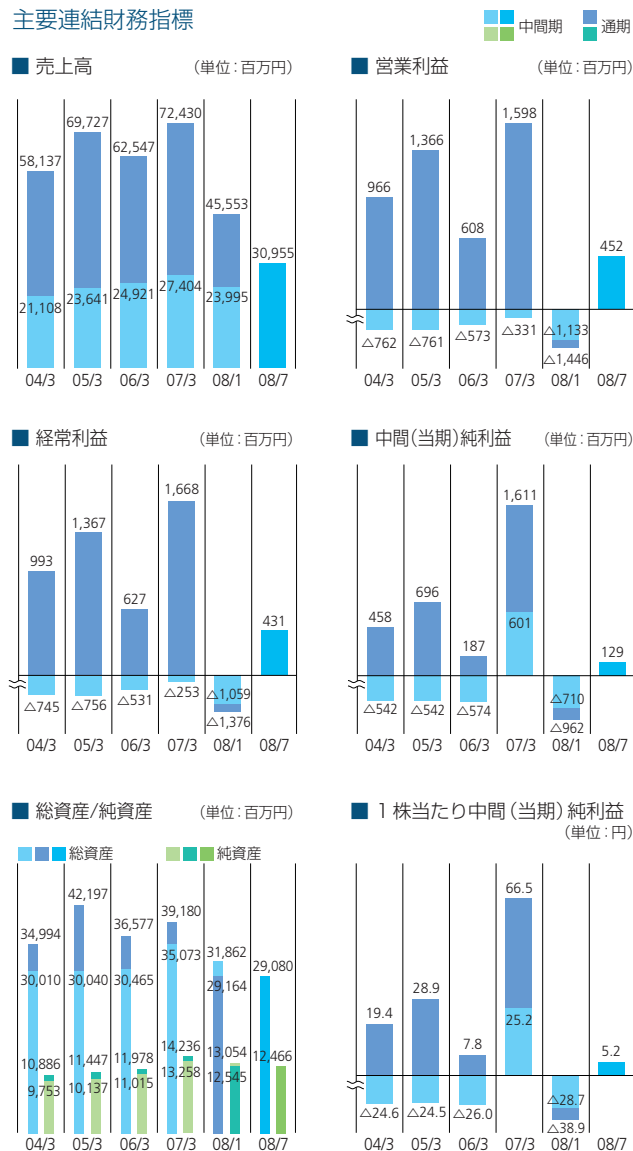
また、当社は長期的な観点に立ち資本の充実を勘案しながら、収益の状況に応じた配当を行うことを基本とし、この方針に基づき配当性向等を考慮し利益の配分を行っております。

2009年1月期の配当につきましては、期末配当のみとし、年間で1株当たり5円を予定しております。

今後とも株主の皆様には、末永い当社へのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2008年10月

主要連結財務指標



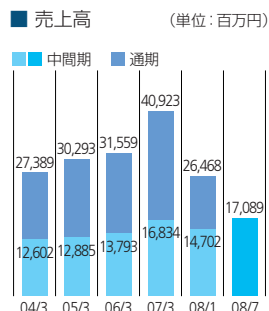
※ 第50期は、2007年4月1日から2008年1月31日までの10ヵ月決算となっております。

Segment Review

商業施設分野

連結売上高 170億89百万円

連結営業利益 12億75百万円



商業施設分野では、「TEPCO SONICオール電化レストラン Paysage」の改装工事に加え、ファストフードチェーンの店舗を幅広く手掛けるなど、飲食店市場の売上は前年同期に比べ堅調に推移しましたが、百貨店や衣料品店などは店舗投資を控える傾向が強くなり、大型店市場や専門店市場などの売上は前年同期に比べ低調に推移しました。



TEPCO SONICオール電化レストラン Paysage



ユニバーサル・シティウォーク大阪
プラス・スウィーツ

商業施設分野
55.2%

連結売上
309億



キャノンプラザS コンスマ・プロダクツ



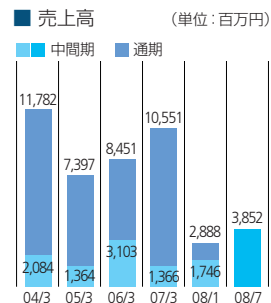
熊本城本丸御殿大広間

恒久展示施設分野

連結売上高 38億52百万円

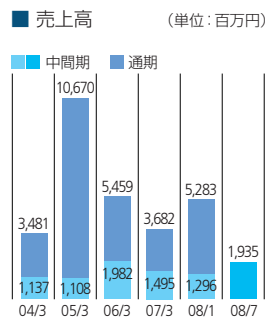
連結営業利益 1億16百万円

恒久展示施設分野では、「十和田市現代美術館」の新装工事などを手掛けたものの、受注競争は厳しく博物館市場の売上は前年同期に比べ低調に推移しました。また、企業の設備投資は抑制傾向にありショールーム市場の売上も前年同期と比べ低調に推移しました。



短期展示施設分野

連結売上高	19億35百万円
連結営業利益	52百万円



短期展示施設分野では、企業の販促投資が縮小される中で「パーゼルワールド2008 セイコースタンド」などを手掛け、展示会市場では前年同期に比べ堅調に推移しました。また、「INAX2008新商品&リフォームフェア」などを手掛け、イベント市場の売上についても前年同期並みに推移しました。



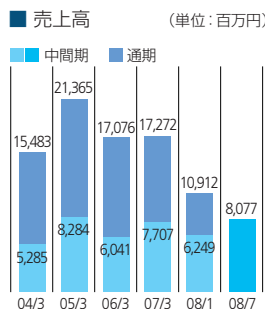
「第19回設計・製造ソリューション展」
三菱電機ブース



帝国データバンク史料館
日本の会社展 第1回 老舗 一温故知新一

その他の分野

連結売上高	80億77百万円
連結営業利益	9億81百万円



その他の分野では、「福井県子ども家族館」や「豊橋市こども未来館」の新装工事などを手掛け、その他施設市場では前年同期に比べ堅調に推移しました。しかしながら、テーマパーク関連の新装、改装に弱さが見られテーマパーク市場の売上は前年同期に比べ低調に推移しました。



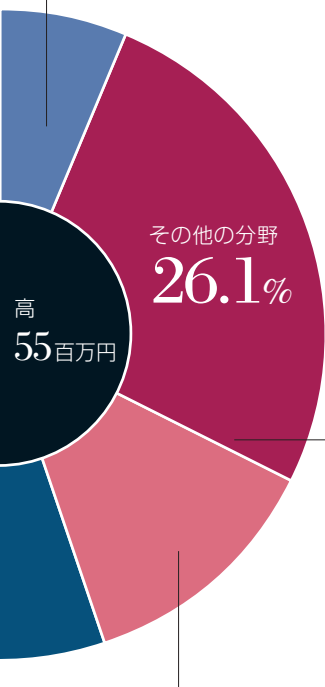
いすゞ自動車本社面接会場



東和不動産オフィスエントランス

短期展示施設分野

6.3%



恒久展示施設分野

12.4%

※ 第50期は、2007年4月1日から2008年1月31日までの10ヵ月決算となっております。

Speciality

洞爺湖サミットでの経験・ノウハウを基盤にさらな



る事業基盤の拡充をめざします。

2008年7月7～9日、北海道洞爺湖町でサミット（主要国首脳会議）が開催されました。日本が議長国を務める今回のサミットでは、深刻化する地球温暖化問題が最大のテーマとなり、サミットの運営自体も環境に配慮するという方針がとられました。

当社は、サミットの模様を世界に向けて発信する国際メディアセンター（IMC）に設置された「環境ショーケース」の企画案作成から係わり、多くの成果を取ることができました。

企画立案にあたって重視したのは、日本の最先端の環境技術を世界に向けて発信すること、そしてその背景にある日本の伝統的な環境共生型の暮らしや美意識を表現することです。日本には自然を取り込んだり、極限まで削ぎ落とし研ぎすませることをよしとする美意識や暮らし方への思想があります。それは、日本が世界に誇る環境技術を育んだものであり、世界に胸を張って発信できる環境配慮の思想といえます。

実際、IMC1階に設置された展示スペースでは、次世代自動車や次世代飛行機、新素材、ヒートポンプ、緑化技術といった最先端技術を紹介する一方で、建築にあたって徹底した部材のリユース、リサイクルを図ったり、北海道ならではの雪氷熱を利用した冷房等の技術を採用するなど、細部にまで環境にこだわる日本的な感性や美意識、思想を採り入れることで、国内外から高い評価を得ることができました。

国際的に注目度の高いサミットのショーケースであるということもあって、紹介する技術、提供いただく企業や展示内容の調整、短期間の工期等に苦勞することもありましたが、全体の企画コンセプトの立案を担当しながらさまざまな業務に関わることができ

たことは、当社の事業基盤を強化する上で貴重な経験であったといえます。また、環境問題という社会的に注目を集めるテーマに主体的に参画できたことは、今後の営業展開に大きく貢献するものであり、このプロジェクトで蓄積した経験・ノウハウをベースにさらなる事業基盤の拡充をめざしていきたいと考えております。



（前列左から）文化空間事業部 営業 統括部 営業2部2課 課長 吉田 清一郎
 文化空間事業部 デザイン統括部 デザイン3部 ディレクター 安斎 聡子
 （後列左から）文化空間事業部 制作推進統括部 制作推進1部 倉持 昌幸
 文化空間事業部 制作推進統括部 制作推進1部 井上 佳之
 文化空間事業部 営業 統括部 営業2部2課 平島 亘

Consolidated Financial Statements

中間連結貸借対照表

(単位: 百万円)

科 目	前期末 2008年1月31日	当中間期末 2008年7月31日	科 目	前期末 2008年1月31日	当中間期末 2008年7月31日
(資産の部)	(29,164)	(29,080)	(負債の部)	(16,619)	(16,613)
流動資産	20,550	20,283	流動負債	15,582	15,667
① 現金預金	4,846	7,022	支払手形・工事未払金等	8,115	8,235
① 受取手形・完成工事未収入金等	9,495	7,123	短期借入金	3,700	3,700
未成工事支出金等	5,120	5,350	未払法人税等	36	—
繰延税金資産	786	—	未成工事受入金	1,817	1,775
その他	328	836	賞与引当金	655	529
貸倒引当金	△ 26	△ 50	役員賞与引当金	6	6
固定資産	8,613	8,797	完成工事補償引当金	82	73
有形固定資産	3,455	3,447	工事損失引当金	158	115
建物・構築物	1,698	1,708	その他	1,010	1,231
機械・運搬具・工具器具備品	585	617	固定負債	1,037	946
土地	2,749	2,749	社債	300	300
減価償却累計額	△ 1,579	△ 1,628	退職給付引当金	34	36
無形固定資産	177	180	役員退職慰労引当金	147	150
投資その他の資産	4,980	5,168	繰延税金負債	22	—
投資有価証券	2,378	2,272	その他	533	458
繰延税金資産	399	—	(純資産の部)	(12,545)	(12,466)
敷金保証金	827	—	株主資本	12,229	12,148
その他	1,671	3,243	資本金	4,026	4,026
貸倒引当金	△ 295	△ 347	資本剰余金	4,025	4,024
資産合計	29,164	29,080	利益剰余金	4,215	4,133
			自己株式	△ 37	△ 37
			評価・換算差額等	306	312
			その他有価証券評価差額金	292	297
			為替換算調整勘定	14	14
			少数株主持分	8	5
			負債純資産合計	29,164	29,080

※ 決算期変更に伴い、前期末は2007年4月1日から2008年1月31日までの10ヵ月決算、当中間期末は2008年2月1日から2008年7月31日までのものを記載しております。

Point-①

売上債権である受取手形・完成工事未収入金等の回収が進み、受取手形・完成工事未収入金等は前期末に比べ23億72百万円減少し、現金預金は前期末に比べ21億76百万円増加しました。

中間連結損益計算書

(単位: 百万円)

科 目	前中間期	当中間期
	自 2007年4月 1日 至 2007年9月30日	自 2008年2月 1日 至 2008年7月31日
② 売上高	23,995	30,955
売上原価	20,961	26,456
売上総利益	3,034	4,498
販売費及び一般管理費	4,167	4,045
営業利益又は営業損失(△)	△ 1,133	452
営業外収益	161	94
営業外費用	87	115
経常利益又は経常損失(△)	△ 1,059	431
特別利益	64	6
特別損失	57	133
税金等調整前中間純利益又は 税金等調整前中間純損失(△)	△ 1,052	304
法人税、住民税及び事業税	35	45
法人税等調整額	△ 374	132
少数株主損失	3	2
中間純利益又は中間純損失(△)	△ 710	129

※ 決算期変更に伴い、前中間期は2007年4月1日から2007年9月30日まで、当中間期は2008年2月1日から2008年7月31日までのものを記載しております。

中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

科 目	前中間期	当中間期
	自 2007年4月 1日 至 2007年9月30日	自 2008年2月 1日 至 2008年7月31日
③ 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,223	2,569
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 457	△ 185
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 156	△ 208
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	0
現金及び現金同等物の増加額	611	2,176
現金及び現金同等物の期首残高	4,718	4,846
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,330	7,022

※ 決算期変更に伴い、前中間期は2007年4月1日から2007年9月30日まで、当中間期は2008年2月1日から2008年7月31日までのものを記載しております。

Point-②

決算期を変更したことに伴い、前中間期と当中間期では対象期間が異なり、当中間期には売上高の集中する3月を含んでいるため、売上高は前中間期に比べ、69億59百万円増加しました。

Point-③

中間純利益を計上したこと等により営業活動によるキャッシュ・フローは25億69百万円の収入となりました。

中間連結株主資本等変動計算書 当中間連結会計期間 (自 2008年2月1日 至 2008年7月31日)

(単位: 百万円)

	株主資本					評価・換算差額等			少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主 資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
2008年1月31日残高	4,026	4,025	4,215	△ 37	12,229	292	14	306	8	12,545
中間連結会計期間中の変動額										
新株の発行										
剰余金の配当			△ 210		△ 210					△ 210
中間純利益			129		129					129
自己株式の取得				△ 1	△ 1					△ 1
自己株式の処分		△ 0	△ 0	0	0					0
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						5	0	5	△ 2	3
中間連結会計期間中の変動額合計	-	△ 0	△ 81	△ 0	△ 81	5	0	5	△ 2	△ 78
2008年7月31日残高	4,026	4,024	4,133	△ 37	12,148	297	14	312	5	12,466

Stock Information / Corporate Data

株式の状況/
会社概要

(2008年7月31日現在)

株式の状況

株式の総数

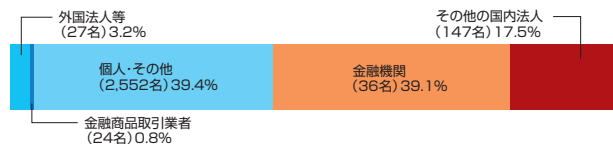
発行可能株式総数 96,000,000株
発行済株式総数 24,832,857株

株主数 2,786名

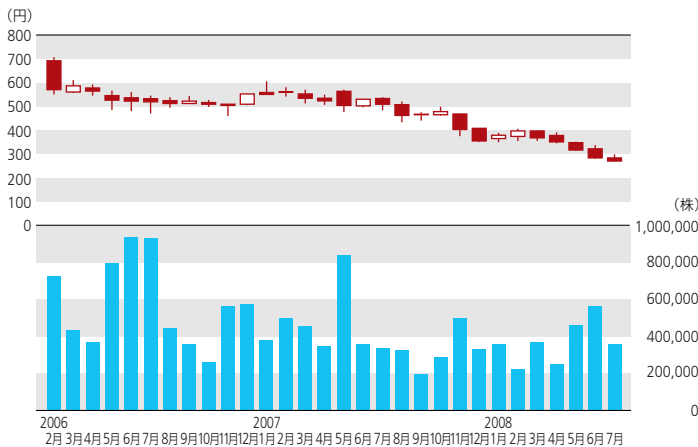
大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
丹青社取引先持株会	1,369千株	5.5%
丹青社従業員持株会	1,333	5.4
日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	1,131	4.6
株式会社三菱東京UFJ銀行	1,086	4.4
株式会社みずほ銀行	1,078	4.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,054	4.2
株式会社三井住友銀行	1,028	4.1
第一生命保険相互会社	978	3.9
日本生命保険相互会社	926	3.7
合同会社渡辺興産	558	2.2

所有者別状況(株式数構成比)



株価



会社概要

商号 株式会社丹青社
設立 1959年12月25日
資本金 4,026,750,657円
上場 東京証券取引所市場第一部
従業員数 969名(連結1,431名)
主要事業内容 国内外見本市、博覧会、展覧会、百貨店、ショッピングセンター、専門店、一般小売店、ホテル、レストラン、ショールーム、オフィス、博物館、科学館等の調査、企画、設計、施工、監理、運営管理

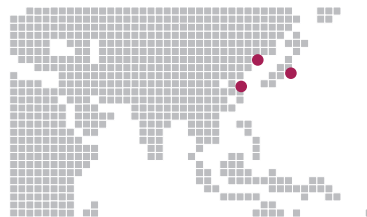
役員

代表取締役社長 渡辺 亮
取締役副社長 萩原 亞海
取締役専務執行役員 青田 嘉光
取締役常務執行役員 鈴木 義隆 (経営管理担当)
取締役常務執行役員 北原 聰 (制作担当)
取締役常務執行役員 伊藤 芳晃 (営業担当、北京丹青嘉輝建築裝飾有限公司董事長、丹青創藝設計諮詢(上海)有限公司董事長)
取締役執行役員 澤田 月来男 (リテールクリエイションセンター長、新規事業および営業担当、株式会社丹青モールマネジメント代表取締役社長)
取締役執行役員 高橋 康夫 (デザインおよび営業担当)
常勤監査役 重政 俊夫
監査役 余田 幹男
監査役 荒川 洋
監査役 山田 博重
執行役員 鈴木 清明 (経営管理センター長)
執行役員 高橋 貴志 (商空間事業部副事業部長)
執行役員 森 俊憲 (文化空間事業部長)
執行役員 橋本 俊朗 (ストアエンジニアリング事業部長)
執行役員 伊藤 文雄 (ストアエンジニアリング事業部副事業部長)
執行役員 家入 幸弘 (エリア事業部長)
執行役員 朝田 賢治 (商空間事業部長)
執行役員 小林 統 (IMC事業部長)
執行役員 洪 恒夫 (クリエイティブ・コアIDSセンター長)

(2008年7月31日現在)

事業所

本社	〒110-8549 東京都台東区上野5丁目2番2号 Tel. 03(3836)7221(代表) Fax. 03(3836)1380(代表)
札幌支店	〒060-0001 北海道札幌市中央区北1条西3丁目3番地 札幌MNビル6F Tel. 011(271)0725 Fax. 011(231)1583
東北支店	〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2丁目1番7号 本町奥田ビル9F Tel. 022(264)0764 Fax. 022(261)7012
名古屋支店	〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦3丁目24番17号 日本生命米町ビル9F Tel. 052(957)7531 Fax. 052(957)7530
関西支店	〒530-0027 大阪府大阪市北区堂山町3番3号 日本生命梅田ビル9F Tel. 06(6313)5200 Fax. 06(6313)5099
九州支店	〒812-0011 福岡県福岡市博多区博多駅前3丁目25番24号 八百治ビル5F Tel. 092(472)1901 Fax. 092(471)7870
沖縄支店	〒900-0033 沖縄県那覇市久米2丁目4番14号 JB・NAHAビル3F Tel. 098(951)1115 Fax. 098(951)1116



連結子会社

株式会社丹青TDC	〒110-0005 東京都台東区上野5丁目2番6号 Tel. 03(3836)7461 Fax. 03(3836)0615
株式会社丹青ビジネス	〒110-0005 東京都台東区上野5丁目3番4号 植木ビル6F Tel. 03(3836)7463 Fax. 03(3832)3225
株式会社丹青研究所	〒110-0005 東京都台東区上野5丁目3番4号 植木ビル7F Tel. 03(3836)7600 Fax. 03(3836)7620
株式会社丹青ディスプレイ	〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町31番14号 岡三桜丘ビル5F Tel. 03(3770)6851 Fax. 03(3770)6845
株式会社ゲーム	〒105-0021 東京都港区東新橋1丁目2番17号 下島ビル8F Tel. 03(5537)7760 Fax. 03(5537)7761
株式会社丹青モールマネジメント	〒110-0005 東京都台東区上野5丁目2番2号 Tel. 03(3836)8100 Fax. 03(3836)7699
株式会社丹青ヒューマネット	〒110-0005 東京都台東区上野5丁目6番11号 リベラ秋葉原9F Tel. 03(3836)8200 Fax. 03(3836)8280
株式会社ティーアンドティー	〒110-0005 東京都台東区上野5丁目8番5号 CP10ビル6F Tel. 03(3836)8600 Fax. 03(3836)8601
株式会社丹青アセットマネジメント	〒110-0005 東京都台東区上野5丁目8番5号 CP10ビル6F Tel. 03(3836)7333 Fax. 03(3836)7363
丹青創藝設計諮詢(上海)有限公司	〒200030 上海市零陵路899号飛洲国際広場18階A座 Tel. +86-21-6486-1817 Fax. +86-21-6335-0867
北京丹青嘉輝建築裝飾有限公司	〒100027 北京市朝陽区東三環北路3号 幸福大廈A座1508室 Tel. +86-10-6463-5631 Fax. +86-10-6463-9531

株主メモ

事業年度	2月1日から翌年1月31日まで
定時株主総会	毎年4月
単元株式数	1,000株
基準日	定時株主総会 1月31日 期末配当金 1月31日 中間配当金 7月31日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先(郵送先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 Tel. 0120-232-711 (通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
公告掲載URL	http://www.tanseisha.co.jp/

HPのご案内

<http://www.tanseisha.co.jp>



IR画面

当社のHPでは最新のIRニュースや株式情報をご覧いただけます。また、広報誌のHP「tansei.net」では、空間・建築に関する様々な情報を発信しています。ぜひアクセスしてみてください。

社名の由来 — 「丹青」とは、中国から伝わった言葉であり、古くは画家のことを指した。唐の詩人、杜甫の七言古詩にも使われている。

丹青知らず、老いの将に至らんとするを。富貴は我れに於て浮雲の如し。(杜甫「丹青引、曹將軍勳に贈る」)

絵を描くことに熱中して歳をとることも忘れ、世の中の富貴、栄華などは、浮雲のように頼りないものと思っている。

株主様向け
アンケート

株主の皆様のお声を お聞かせください

当社では、株主の皆様のお声を聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

下記URLにアクセスいただき、
アクセスコード入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。
所要時間は5分程度です。

<http://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 9743

いいかぶ

検索

Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、「いいかぶ」と4文字入れて検索してください。



空メールによりURL自動返信

kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。



携帯電話からもアクセスできます

QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。



●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から
抽選で薄謝(図書カード500円)
を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細 <http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

 **Tanseisha** 株式会社 丹青社

〒110-8549 東京都台東区上野5丁目2番2号
Tel. 03(3836)7221 (代表) Fax. 03(3836)1380 (代表)

撮影者: 新 良太、石井 紀久、ヴィスタジャパン 廣崎 節雄、川崎写真事務所 川崎 信司、
クドウオリジナルフォト、近藤 真、築地 耕一、ナカサ&パートナーズ、林 拳示郎、
三富 純、山田 誠良